



年 組 名前

道新で
ワークシート

松前藩士らの墓 択捉島に



【ユジノサハリンスク細川伸哉】北方領土の択捉島に、江戸時代後期にロシアの南下に備えて警備に当たった東北地方や松前藩の藩士らの墓が残されていることが、北海道新聞の現地取材で分かった。通商を求めるロシアとの係争が本格化した19世紀初頭から、1855年の日露通好条約で国境画定するまでの時期に設置されたと思われる約20基で、専門家は「貴重な歴史遺産だ」として保全の必要性を訴えている。

江戸時代後期 日ロ係争の警備拠点

北海道新聞ユジノサハリンスク支局のマリヤ・プロコフィエワ助手が6月中旬、3年前に墓を発見したというロシアの水産会社経営者の案内で取材した。

墓は択捉島中部の振別で見つかった。ロシアは1807年、江戸幕府が開港要求を拒絶したことを受け、択捉島の紗那を襲撃。その後、振別が択捉島の警備拠点となり、蝦夷地を直轄領とした幕府が東北諸藩に警備を命じた。戦前まで日本の漁場があったが、現在は人は住んでいない。

海岸から約700以内陸のササ

が生い茂る森の中で、約40四方に墓石などごみられる19基が点在。このうち13基に名前や和暦などの文字が刻まれていた。大きさは50センチ〜120センチ。

このうち最も年代が古いと考えられるのは和暦で「文化九壬申歳 七月十三日」と刻まれた石で、西暦1812年に当たる。日ロ関係は前年の11年にロシア艦長ゴローニンが国後島で日本に捕

らわれるのは和暦で「文化九壬申歳 七月十三日」と刻まれた石で、西暦1812年に当たる。日ロ関係は前年の11年にロシア艦長ゴローニンが国後島で日本に捕

■江戸時代後期の択捉島を巡る出来事

- 1798年 近藤重蔵らが調査
- 1800年 高田屋嘉兵衛の航路開拓により漁場経営と警備始まる
- 07年 幕府が蝦夷地一円を直轄領に。ロシア艦2隻が紗那など襲撃
- 11年 ゴローニン事件。解決後、日ロの緊張緩和
- 21年 松前藩が再び蝦夷地支配
- 55年 日露通好条約

専門家「歴史遺産として保存を」

らわれる一方、12年にロシアが報復として豪商高田屋嘉兵衛をカムチャツカに連れ去る事件が起きるなど係争が激化していた。

この石には「南無阿弥陀仏」の旧字体とともに「施主 盛岡」と記され、蝦夷地に出兵していた盛岡藩(南部藩)との関係が浮かぶ。写真で石を分析した、もりおか歴史文化館(盛岡市)の熊谷博史学芸員(38)は「盛岡の藩士が、はるか北方の島で命懸けで警備に当たっていた歴史を物語る痕跡で貴重だ」と語る。

名前と死亡時期が読みとれる墓石も見つかった。明石季賢(1826年死去)、藤原正蔵(28年死去)、村田亀之丞(51年死去)の3人は、いずれも松前藩士で、択捉島で没したとする記録が、松前藩や江戸幕府設置の国泰寺(釧路管内厚岸町)の関係史料にあった。松前、厚岸両町教委によると、死亡時期も合致した。

蝦夷地は21年以降、松前藩が再び支配し、択捉島を含めて警備に当たっていた。

振別は松前藩の勤番所の配置が絵図に残されており、北海道博物館の右代啓視研究部長(60)は「会所や砲台などの痕跡も残されている可能性がある。歴史遺産として日ロが協力し、早急に一带を調査保存することが望まれる」と話している。

2019年7月20日(土) 朝刊 全道遅版 社会27P (記事は再編集しています)

①江戸時代後期の択捉島について、政治的にどのような島だったといえるか答えなさい。

②1821年以降、択捉島の防備にあっていた藩名を答えなさい。